

( 陳受23第22号 )

すべての原発の廃止についての国への意見書提出に関する陳情

受理年月日

平成23年 9 月22日

陳 情 者

吉祥寺東町 3 - 17 - 21  
五郎丸 聖子

### 陳 情 の 要 旨

2011年 3 月11日に起きた東日本大震災による福島原発事故は、半年以上たった今も収束の方向は見えず、私たちは毎日不安な日々を送っています。

今、放射線物質による低線量被曝についてのデータはないと言われており、専門家によってもその危険性、体内への影響力についての考えにはばらつきがあるようです。そのような中で、私たちは、自分自身や家族、友人知人たちの被曝をできるだけ避けるため、みずから情報を探していかなければならない状況です。これから、今まで人類が経験したことのないようなことが周囲で起きるのかもしれない。

日本は世界で唯一の被爆国として戦後以来やってきました。ところが一方で、「原子力の平和利用」ということで、原発建設を私たちは容認してきてしまいました。原発も原爆と同じであるにもかかわらずです。どちらも、憲法に根拠を持つ平和的生存権を侵しているという意味では同じです。原発政策をとめることができなかつたことが悔やまれます。

ですが、悔やんでいるだけでは始まりません。これから先の未来の人々のために、私たちは各立場でできることをやっていかなければならないのです。

私たち一人一人は、そのような意識からライフスタイルを変え始めています。

自治体レベルにおいても、できることがあると思います。この点については市民として一緒に考える場に参加できたらと思っています。

そして国としてなすべきことについてです。今、福島原発事故を経験してしまった日本は、原子力政策を早急に改めなくてはならないと思います。国民に対し、危険と隣り合わせに生きていくことを強いる政策は改めるべきです。そのような意味で、もはや脱原発への道しかないのだと確信します。

よって、武蔵野市議会に対し、すべての原発を廃止するように、国（内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、関係各省庁）に意見書を提出するよう陳情いたします。